

2023年9月期 第2四半期 決算説明会

三洋貿易株式会社（証券コード：3176）
代表取締役社長 新谷 正伸

2023年5月29日

目次

01

2023年9月期
上半期 実績

02

2023年9月期
通期業績予想

03

成長戦略

01

01

2023年9月期
上半期 実績

02

2023年9月期
通期業績予想

03

成長戦略

1

上半期は利益ベースで通期計画に対し、進捗率50%超で折り返し

2

日系自動車メーカーの減産の影響が一服し、産業資材が堅調

3

機械資材セグメントのグループ会社、コスモス商事、ワイピーテック、スクラムが利益増に貢献
→着実にM&Aで成果を発揮

連結実績

- 上半期の営業利益は約30%の増加
- 営業外損益で、前期は為替差益（6億円）、今期は為替差損（0.8億円）を計上
- 特別損益では、前期は負ののれん発生益を計上（3.6億円）、今期は投資有価証券売却益を計上（2.2億円）

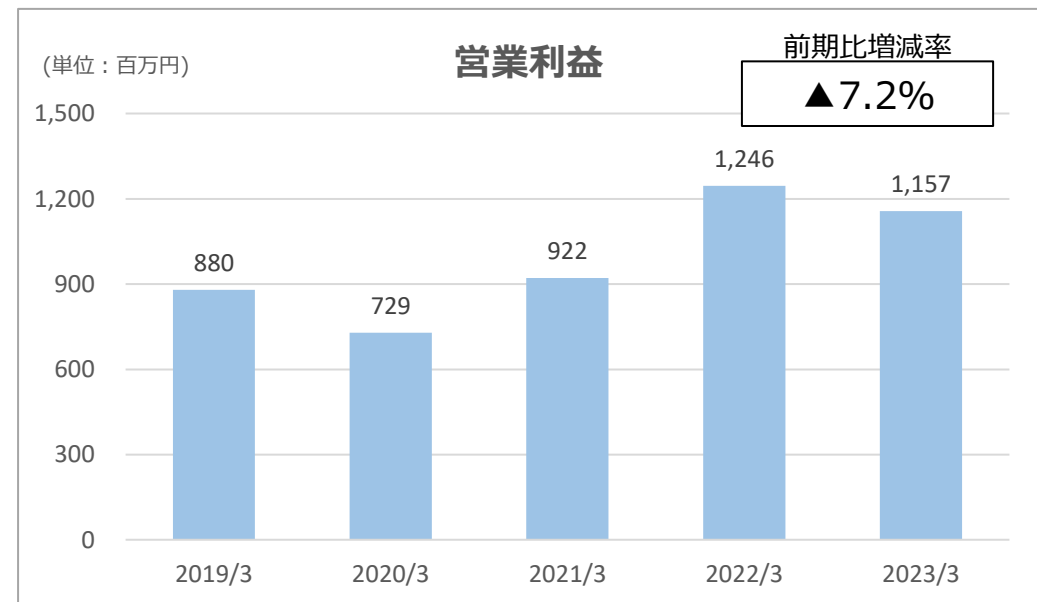
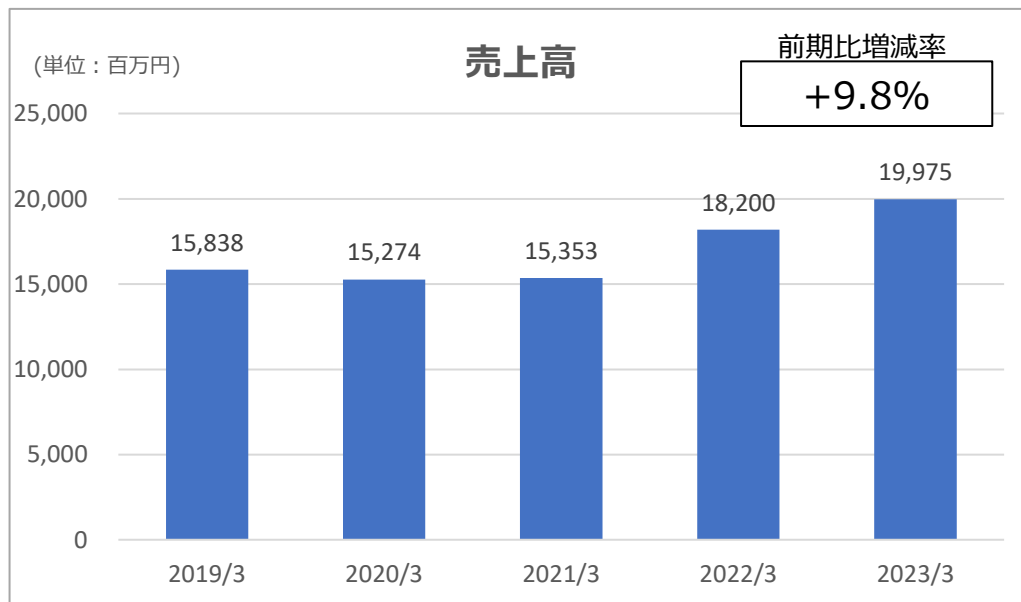
(単位：百万円)	2022年9月期	2023年9月期				
	上半期	上半期			通期	
	実績	実績(A)	前期比増減	構成比	通期計画(B) (2022/11/8公表)	進捗率 (A)/(B)
売上高	50,539	61,918	+22.5%	100.0%	128,000	48.4%
売上総利益	8,303	10,513	+26.6%	17.0%		
<売上総利益率>	16.4%	17.0%	-	-		
販売費及び 一般管理費	5,357	6,723	+25.5%	10.9%		
営業利益	2,945	3,790	+28.7%	6.1%	6,500	58.3%
経常利益	3,666	3,751	+2.3%	6.1%	6,800	55.2%
<経常利益率>	7.3%	6.1%	-	-	5.3%	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,706	2,517	▲7.0%	4.1%	4,500	55.9%
EPS(円)	94.31	87.62	-	-	156.75	-

計画進捗率
50%超

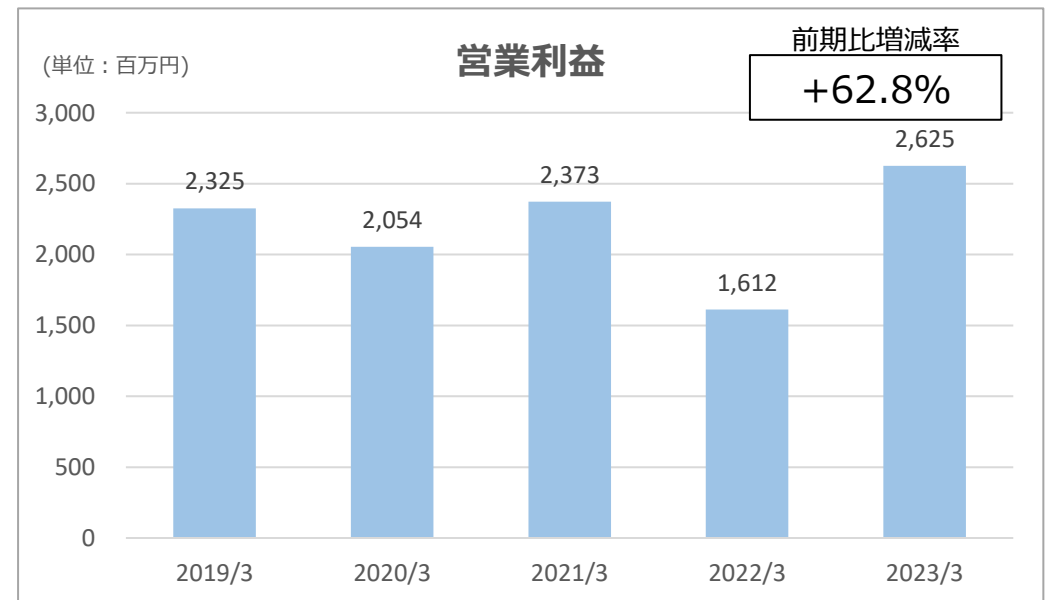
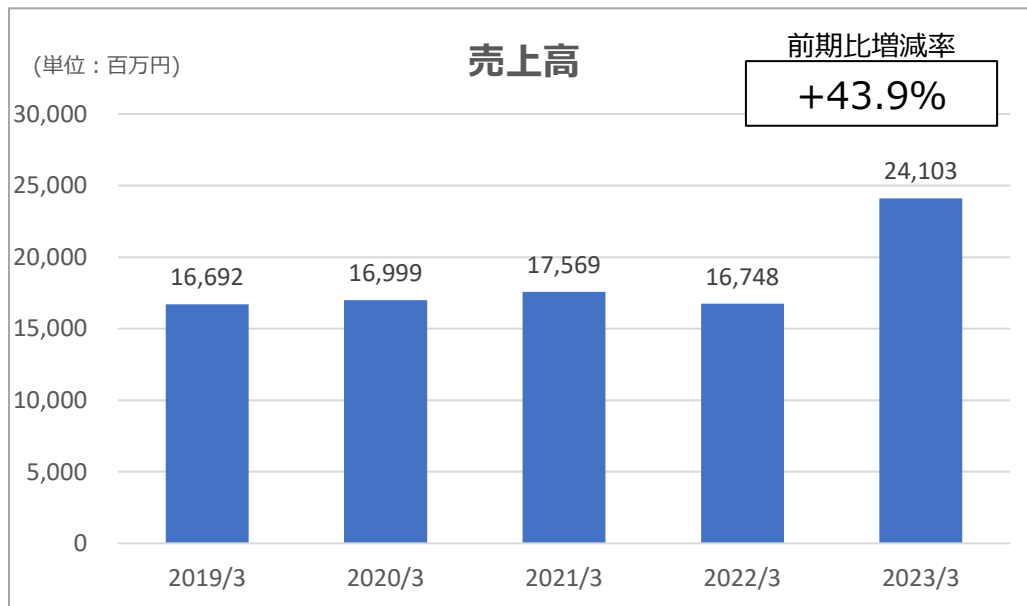
化成品セグメント 【ゴム事業部、化学品事業部、ライフサイエンス事業部（マテリアルソリューション：MS）及びグループ会社】



事業部	上半期の状況
ゴム	<ul style="list-style-type: none"> •合成ゴム、配合剤の販売は堅調も、顧客の在庫調整が目立ち始め、出荷量は減少傾向 •欧米からの輸入品の仕入価格高騰や一部商材の一時的不調の影響を受ける •戦略商品/次世代商品の育成・拡販を推進
化学品	<ul style="list-style-type: none"> •他社から移管を受けた新規取扱商材が1月から立上り、売上は堅調 •主力商材の一部が円安による仕入価格高騰の影響を受け、利益は前期並み
ライフサイエンス (MS)	<ul style="list-style-type: none"> •主力の電材及び香料・染料は好調を継続、北米向け食品添加物は受注好調も円高の影響で利益伸びず •中国経済の景況感悪化を受け、リチウムイオン電池用関連部材は苦戦



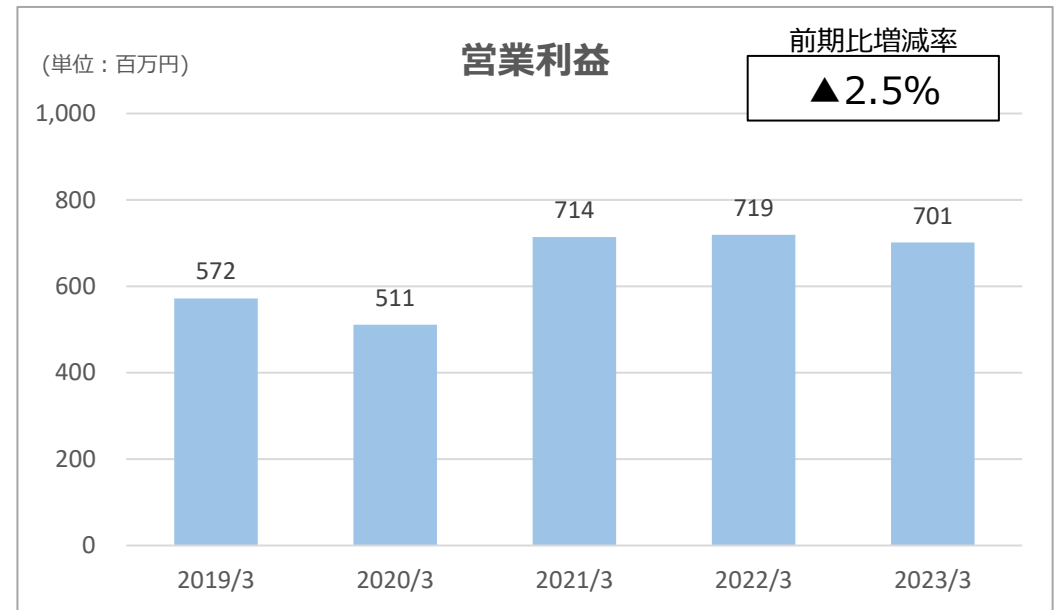
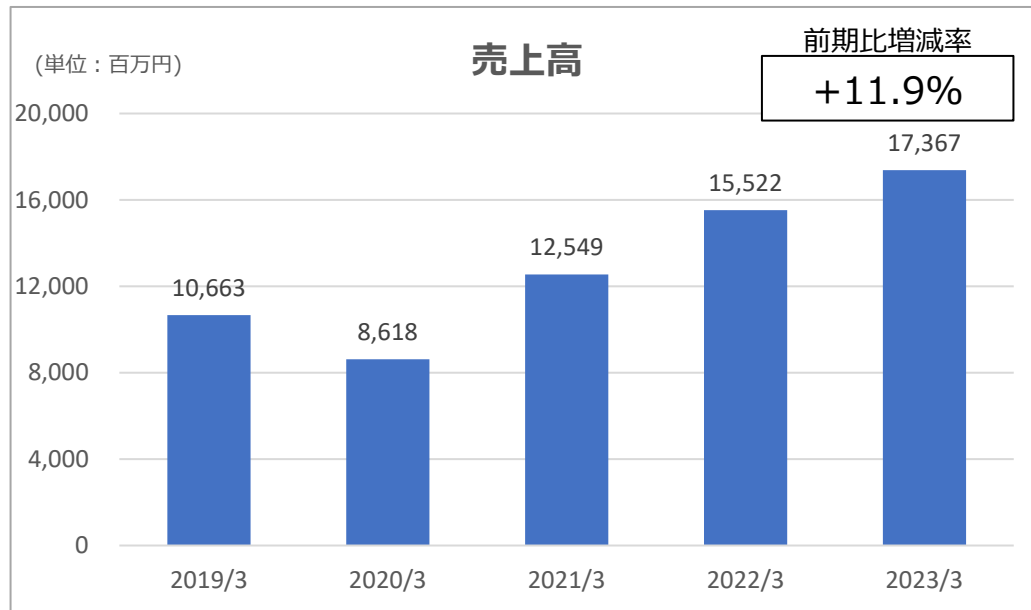
事業部	上半期の状況
産業資材	<ul style="list-style-type: none"> 半導体・部品不足等に起因する日系自動車メーカーの減産の影響が一服し、堅調に推移
機械・環境	<ul style="list-style-type: none"> 飼料加工機器：消耗品は堅調に推移するも、本体案件の計上が少なく苦戦 木質バイオマス：本体物件の計上なく低調 コスモス商事：地熱開発機材が好調を継続、海洋開発分野では、洋上風力発電関連機材が伸長 ワイピーテック：機能性飼料原料は主力製品の原材料の価格高騰が一服し、復調
ライフサイエンス (科学機器)	<ul style="list-style-type: none"> 大型案件納入と3月の本体納入が利益貢献 2022年2月買収のスクラム社が今期はフルに利益寄与



海外現地法人セグメント【アメリカ・中国・タイ・ベトナム・メキシコ・インドネシア・インド】



事業部	上半期の状況
海外現地法人	<p>北米で売上伸長も、利益は横這い</p> <ul style="list-style-type: none"> •アメリカ フィルム堅調、自動車部品はアラバマでの生産計画がビハインド •中国 景況感悪化を受け苦戦、産業資材・ゴムの主要顧客である日系自動車メーカーが販売不振 •タイ 自動車部品が好調も、他商材での販売費増の影響で利益は前期並み •その他地域 インドネシア：ゴム好調が継続 / ベトナム：ベトナム工業全体の影響を受け低調 等



02

01

2023年9月期
上半期 実績

02

2023年9月期
通期業績予想

03

成長戦略

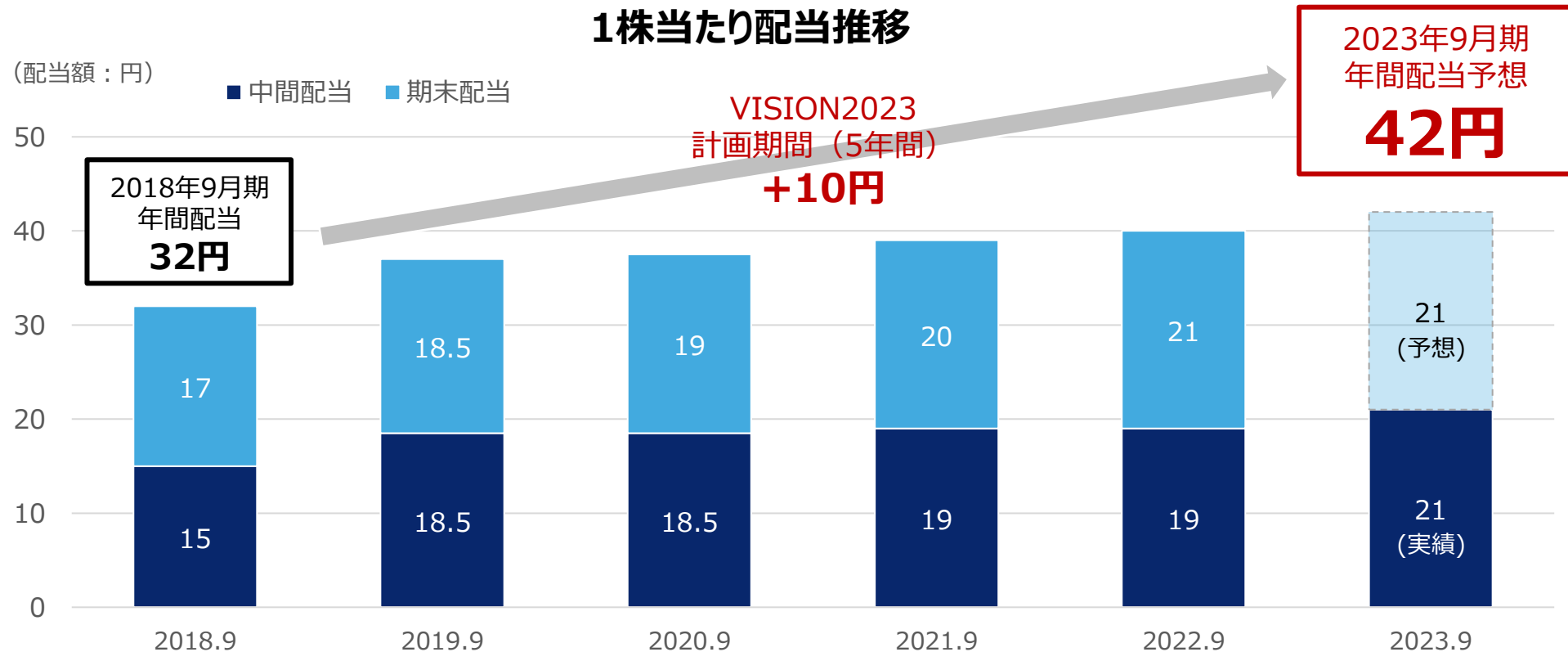
2023年9月期 通期業績予想

■ 通期業績予想は据え置き

(単位：百万円)	2023年9月期				
	上半期			通期	
	実績(A)	前期比増減	構成比	通期計画(B) (2022/11/8公表)	進捗率 (A)/(B)
売上高	61,918	+22.5%	100.0%	128,000	48.4%
売上総利益	10,513	+26.6%	17.0%		
<売上総利益率>	17.0%	-	-		
販売費及び 一般管理費	6,723	+25.5%	10.9%		
営業利益	3,790	+28.7%	6.1%	6,500	58.3%
経常利益	3,751	+2.3%	6.1%	6,800	55.2%
<経常利益率>	6.1%	-	-	5.3%	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,517	▲7.0%	4.1%	4,500	55.9%
EPS(円)	87.62	-	-	156.75	-

株主還元について

- 成長投資とのバランスも加味しつつ、安定的な株主還元を進める方針は変わらず
- 配当については、「一株当たり配当額」の安定的増額に重点を置き、長期安定的な株主還元を行ってゆく方針
- 期末配当予想は21円、年間配当予想は42円を維持



※ 分割調整後
2020年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施

03

01

2023年9月期
上半期 実績

02

2023年9月期
通期業績予想

03

成長戦略

経営資源

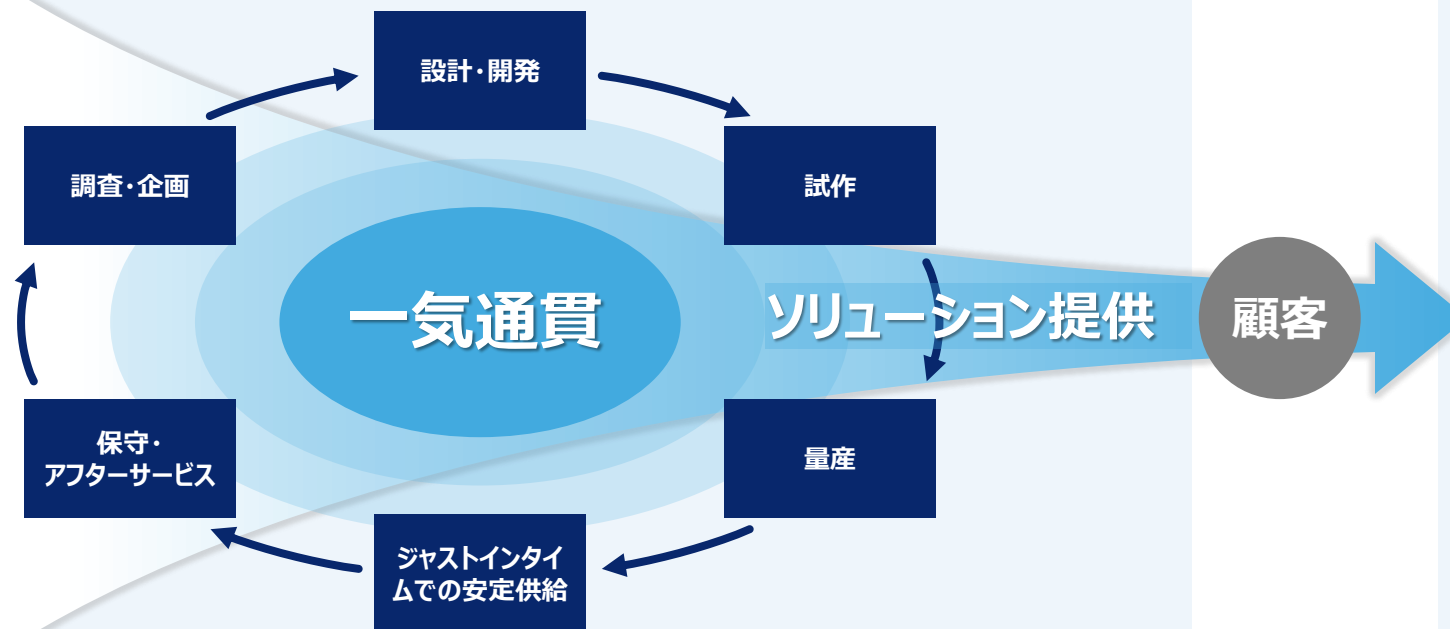
専門知識と
ノウハウ

1商品
1仕入先

10カ国
17拠点

ビジネスモデル

- ・ 付加価値サービスを提供
- ・ 設計・開発から保守まで顧客の製造をフルサポート
- ・ 安定した製造をサポートする技術的支援を提供



社会課題の解決 (マテリアリティ)

地球

環境負荷の
低減

人

心豊かな
暮らしの提供

三洋モデルの強化に向けて ー成長戦略の構成要素ー

成長戦略①

潜在コア事業

成長戦略②

海外展開



最適解の提供

成長戦略③

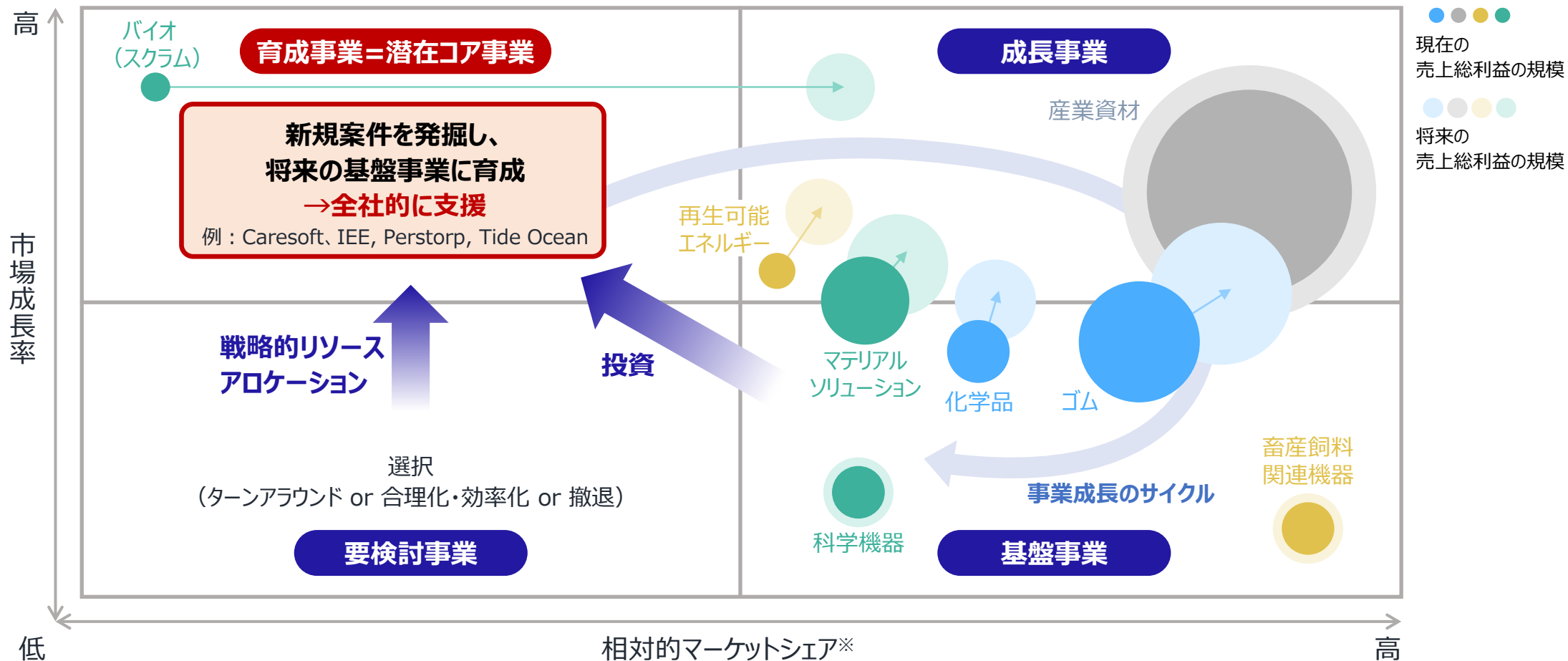
事業投資

成長戦略④

人的資本

成長戦略 ① –潜在コア事業–

- 28の潜在コア事業を選定し、コーポレート部門と連携しPDCAを推進
- 経営リソースを育成・成長事業に戦略的にアロケーション



※ 相対的マーケットシェア:同一マーケットにおけるトップシェア企業に対する自社のシェアの割合

海外展開二つの施策

①

拠点拡充を推進

(北米・アジアに次ぐ拠点を整備)

②

連結経営管理の強化

狙い

海外の成長市場取込

海外現地企業とのビジネス拡大

現地サプライヤーとの関係構築

当社の強さの源泉「1商品1仕入先」の強化

世界最先端の情報へのアクセス

環境規制・科学技術・AI領域などマーケットインからの新ビジネスの発掘

人材育成

若手社員の研修生派遣、経営人材の育成

- ・ 今後も成長のための新規投資を積極的に推進
- ・ 失敗案件を未然に排除する目的



骨太方針の策定

① 3つの前提条件

事業を強くする
相乗効果

当社の
海外展開 加速

将来の
成長性

② 保有方針

長期保有
を原則

自らオーナーシップを持って
事業運営 を行う

キャピタルゲイン狙いの
投機はしない

③ 出資比率

マジョリティ取得を基本スタンス（目的に応じて決定）

④ 財務規律 （目安）

自己資本比率

50%超

D/ELシオ

0.5倍

3Sを整備し、多様な人材・知の集結を実現

S Shared Value

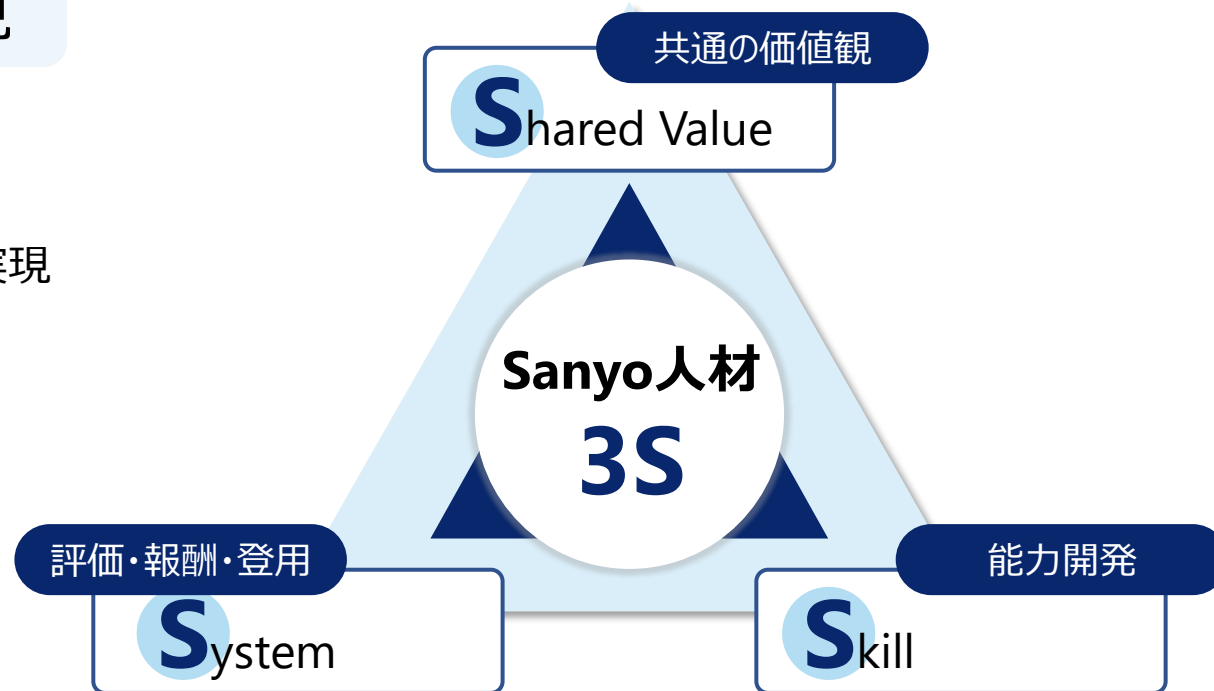
自由闊達と自己規律を基軸としたウェルビーイングの実現

S System

フェアな評価・報酬・登用を担保し、会社・社員が
選び選ばれる存在であり続けるための仕組み

S Skill

社員が志向するキャリアを支援する能力開発



当社VISION（あり姿）の実現



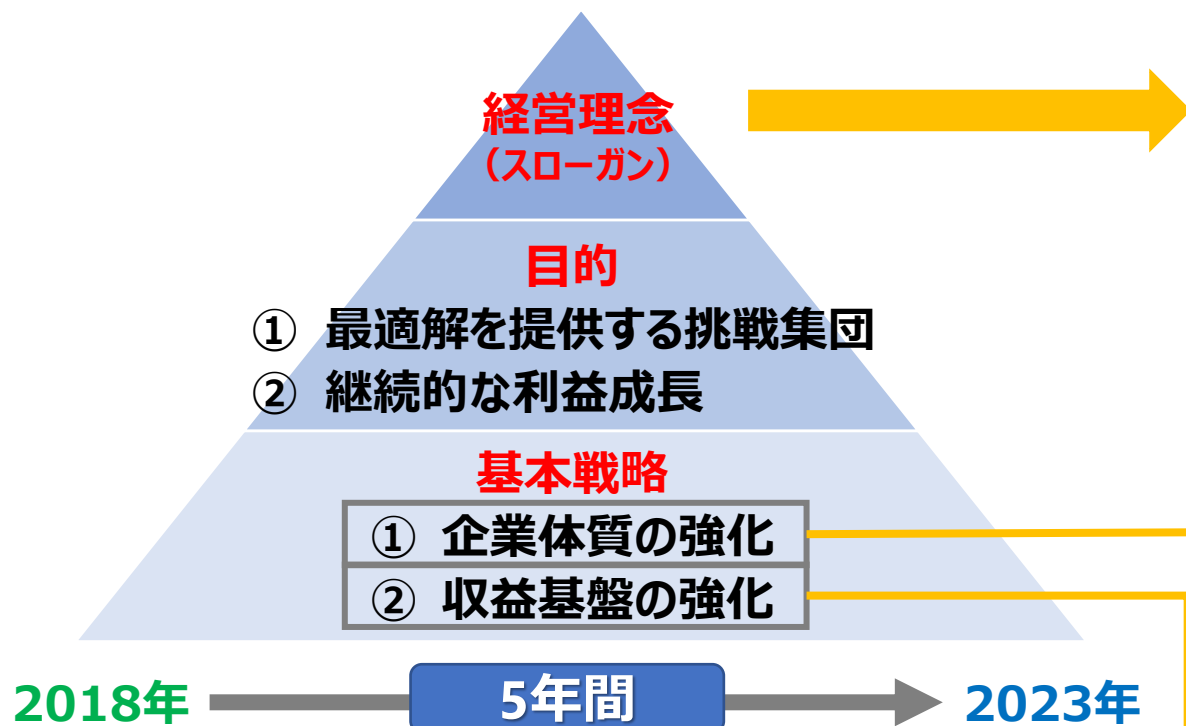
最適解への挑戦
Challenging ourselves for the BEST solution

<https://www.sanyo-trading.co.jp/>

三洋貿易株式会社
(証券コード：3176)

Appendix.

VISION2023の全体図



項目	数値目標 (2023年9月期)
連結経常利益	75億円
ROE	15%
海外拠点成長率 (売上)	10%/年

経営理念

堅実と進取の精神、自由闊達な社風のもと、柔軟かつ迅速に最適解を提供し、国際社会の永続的な発展と従業員の幸福を共創する。

<スローガン>
「最適解への挑戦」



基本戦略	7つの戦略	
企業体質の強化	A	最適解への挑戦
	B	企業基盤の強化
	C	人材への投資
収益基盤の強化	D	事業領域の深化
	E	新規ビジネスの開拓
	F	グローバル展開の加速
	G	新規投資案件の推進

化成品

- ゴム事業部
- 化学品事業部
- ライフサイエンス事業部
(マテリアルソリューション)

子会社

- ケムインター
- 三洋ライフマテリアル

機械資材

- 産業資材第一事業部
- 産業資材第二事業部
- 機械・環境事業部
- ライフサイエンス事業部
(科学機器)

子会社

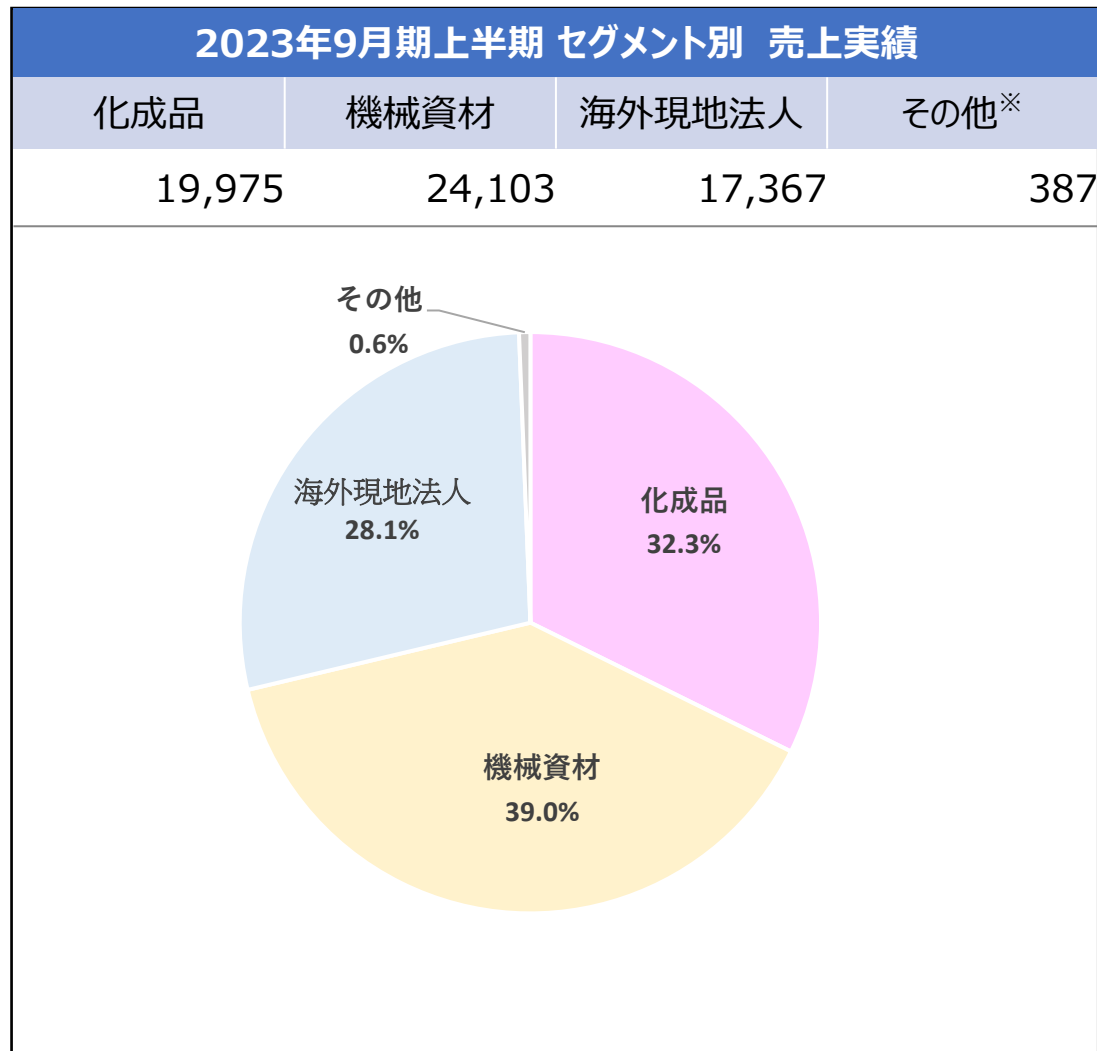
- コスモス商事
- ワイピーテック
- 三洋機械工業
- 新東洋機械工業※1
- 三洋テクノス
- 日本ルフト
- 日本フリーマン
- スクラム

海外現地法人

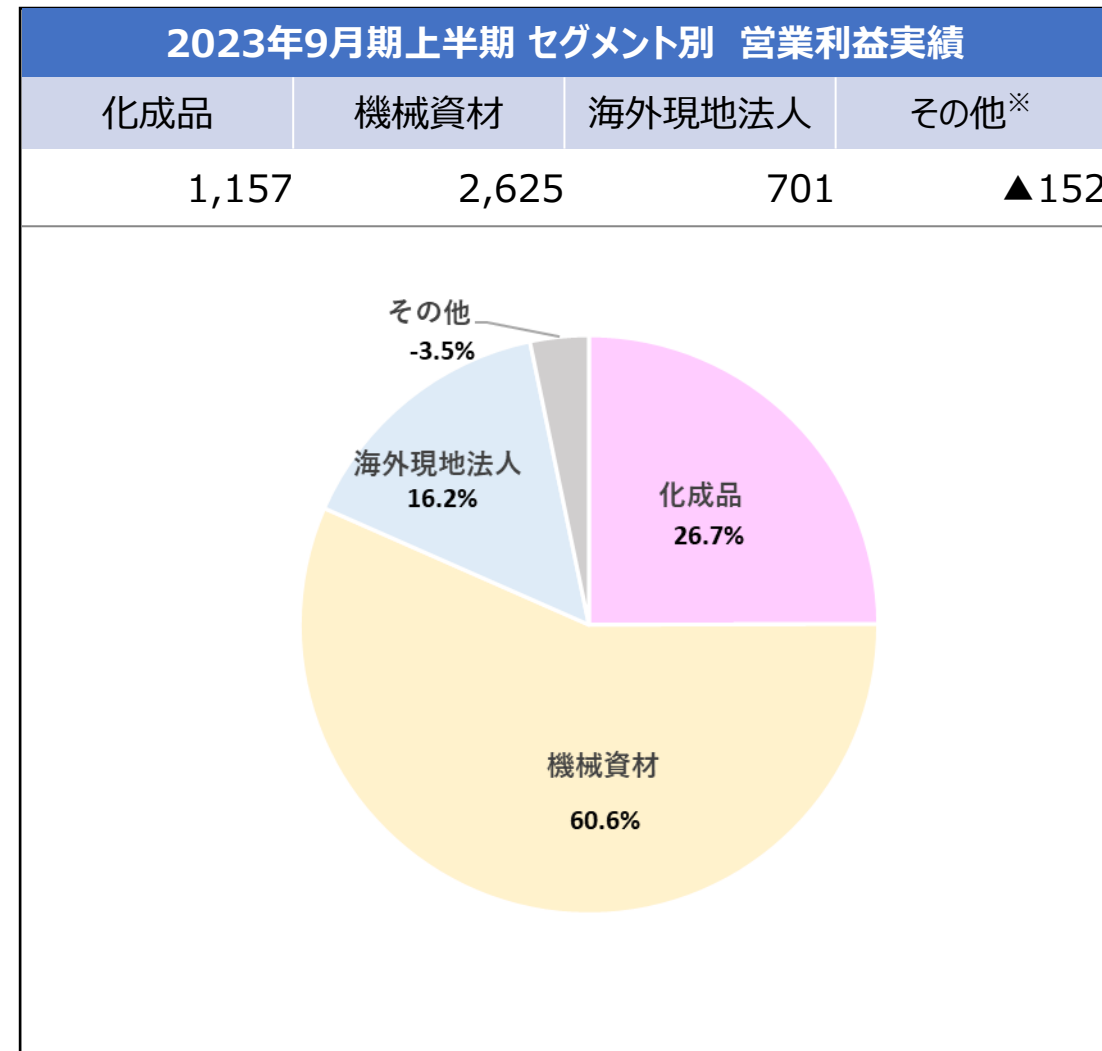
- SANYO CORPORATION OF AMERICA
- 三洋物産貿易（上海）有限公司
- SANYO TRADING ASIA CO., LTD.
- SUN PHOENIX MEXICO, S.A. de C.V.
- 三洋貿易(ベトナム)有限会社
- PT. SANYO TRADING INDONESIA
- 三洋貿易インド株式会社

※1 2023年9月期から新東洋機械工業株式会社を連結の範囲に追加

単位：百万円



(注) 連結調整前



(注) 連結調整前

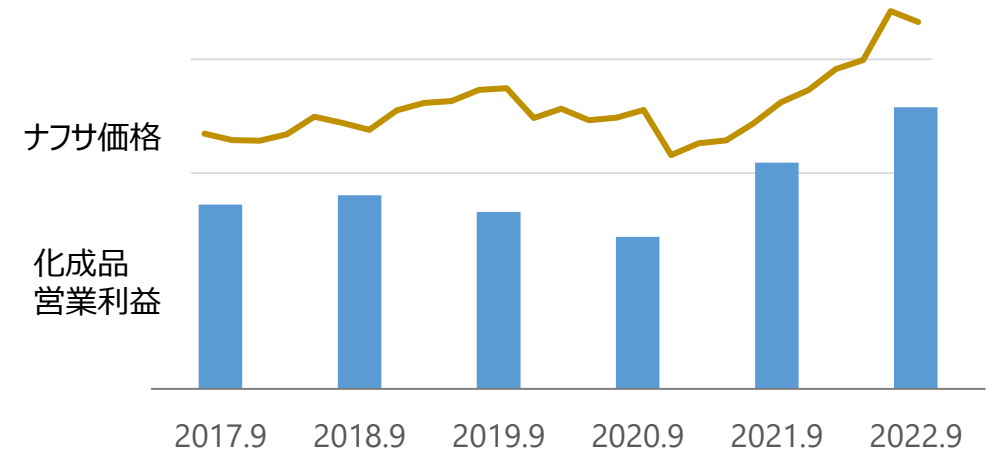
事業部紹介 - ゴム事業部 -

- 1947年設立の当社の祖業であり、国産の生産販売開始に先立ち日本で合成ゴムを輸入販売開始(1950年)
- 1952年 ポリサー社(カナダ)の総代理店となり、合成ゴムのパイオニアとして国内のゴム工業発展に貢献

【事業の特徴・強み】

- 主要仕入先は合成ゴム生産量世界一のアランセオ社(※)、シリコン世界一ダウミカル子会社・ダウ東レ。フッ素ゴム・中国#1のダウホン社。
- 準汎用ゴム、特殊・機能性ゴム・配合剤を主に幅広い商品を取扱う。
- 販売先は各種ゴム製品の国内/海外日系主要メーカーをほぼ網羅。
- 加速する販売先の海外生産シフトには当社海外拠点が対応。
- エポキシ化天然ゴム、植物由来カーボンなど、次世代商品に注力。
- 業績先行指標：ナフサ価格

【ナフサ価格と化成品セグメント営業利益の相関性】



【取扱商材(一部抜粋)】



合成ゴム

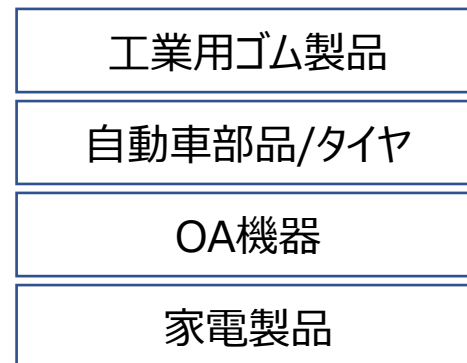


ゴム補強・充填材



熱可塑性エラストマー・樹脂

【販売先業種】



【最終用途】



タイヤ



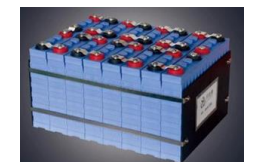
高圧ホース



自動車用シール材



電子部品



リチウムイオン電池(パッキング)

事業部紹介 -化学品事業部-

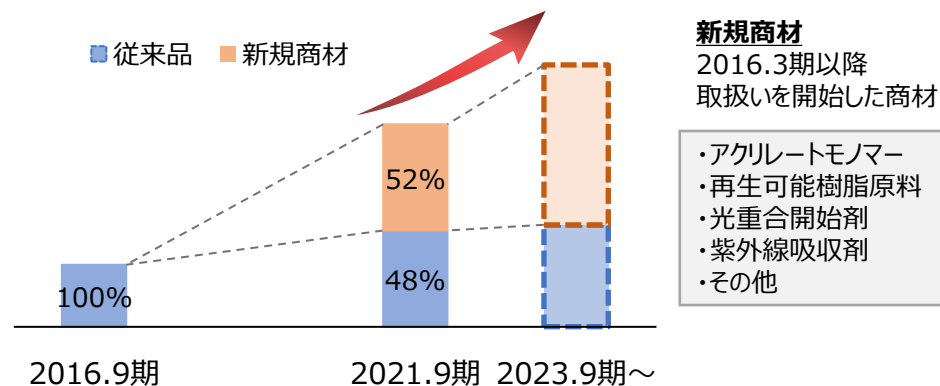
- 1949年から化学品の取扱いを開始、領域を拡げながら市場開拓を推し進める
- ゴム事業部に次ぐ歴史を持ち、産業資材事業部、ライフサイエンス事業部 科学機器部の母体になった事業部

【事業の特徴・強み】

- インキ、接着剤、コーティング、プラスチック向け機能性化学品を中心に多品種を取扱う
- 環境配慮型素材をはじめとした新規商材の開発を推進
- 事業部利益の50%超は、直近6年に獲得した商材
- ゴム関連商品に比べ、ナフサ市況による業績変動は緩やか

【新規商材の開発・拡販を推進】

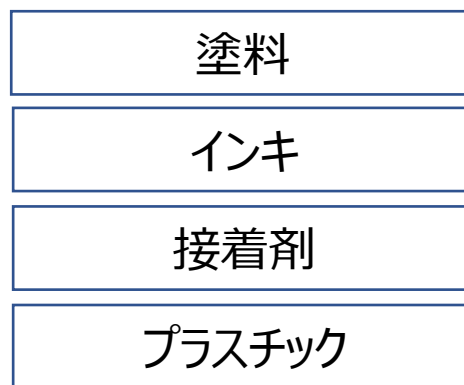
＜化学品事業部の売上総利益構成＞



【取扱商材(一部抜粋)】



【販売先業種】



【最終用途】



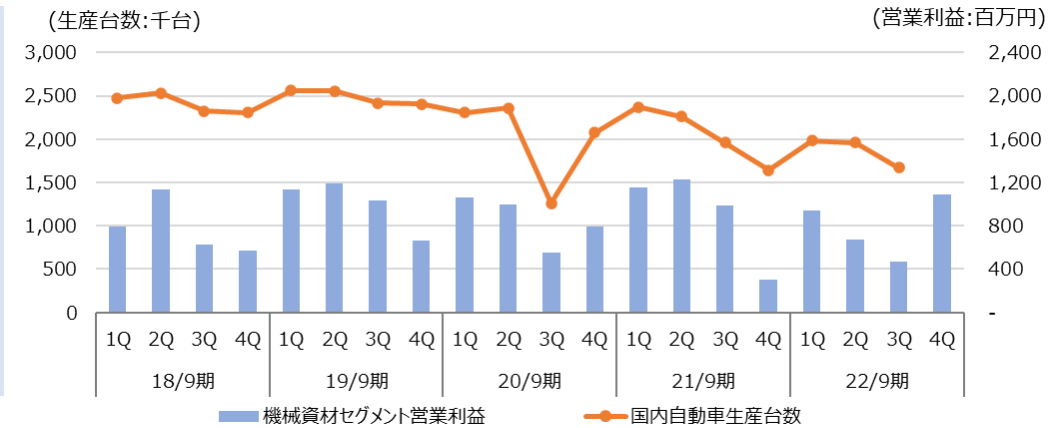
事業部紹介 - 産業資材第一事業部 / 産業資材第二事業部 -

- 1979年 取引先からの紹介で自動車シート用部材の輸入を開始、1990年代に取扱品目を拡大
- 2001年 産業資材事業部発足、以降当社の成長を牽引

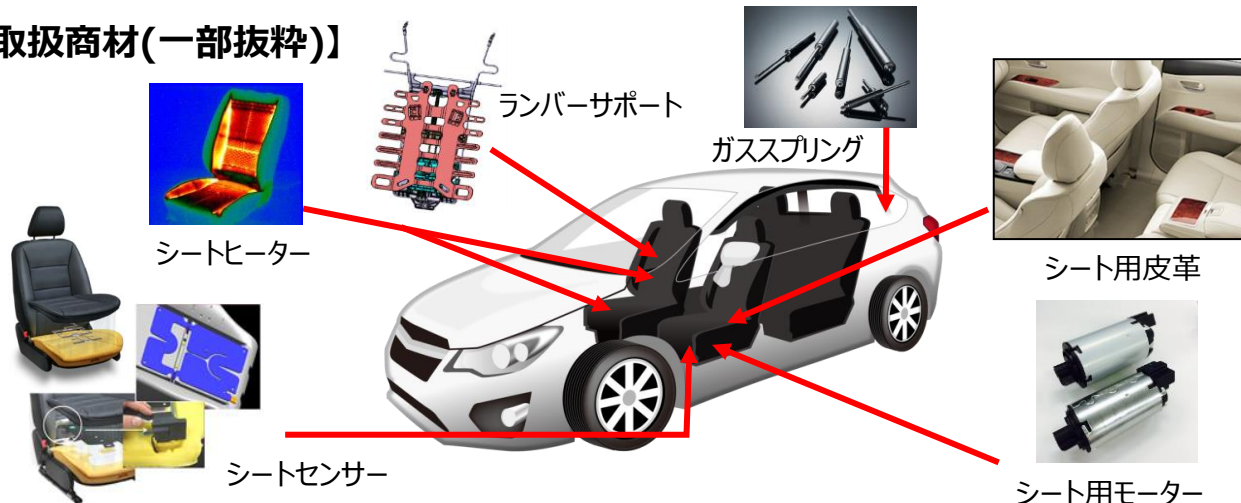
【事業の特徴・強み】

- 受注/開発/立ち上げ/量産管理/旧型補給品対応まで一貫して対応し、海外部品メーカーの技術営業の役割も担う
- 海外商材をメーカーの要望に沿って、日本品質にカスタマイズして納入
- 日系自動車メーカー、Tier1との系列にとらわれない取引関係構築
- 商材は高価格帯車種への採用から始まり、その後、縦(他車種)・横(他メーカー)に展開する販売戦略

【国内生産台数・機械資材セグメント営業利益推移】



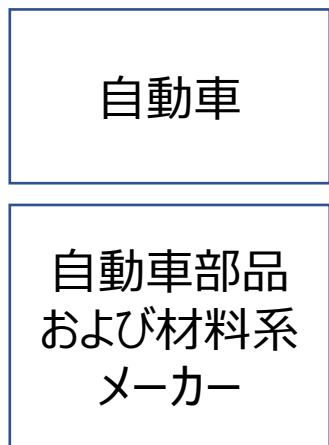
【取扱商材(一部抜粋)】



【販売先業種】



スキャニングによる
ベンチマーキングサービス



事業部紹介 -機械・環境事業部-

- 1956年 アメリカCPM社と総代理店契約を締結し、ペレット製造機の輸入販売開始
- 木質バイオマスは、2015年 群馬県上野村に日本初のペレットガス化装置を設置した後、複数の大型PJで実績を積み重ねる

【事業の特徴・強み】

CPM社製ペレットミル

- 飼料用ペレットミルのシェア90%以上を基盤とした安定的なビジネス
- メンテナンス部隊による継続的な保守サービス提供（三洋機械工業）

木質バイオマス関連機器

- 独ブルクハルト社製のガス化熱電供給装置で国産木材を有効活用
- 木質ペレット製造設備とのシナジー効果を期待
- 再生可能エネルギーによるカーボンニュートラルへの貢献、地域振興の政策意義

【取扱商材(一部抜粋)】



CPM社 ペレットミル



(各種ペレット)



木質チップ用stela乾燥機



ハンマーミル各種
(衝撃による細かな粉砕)



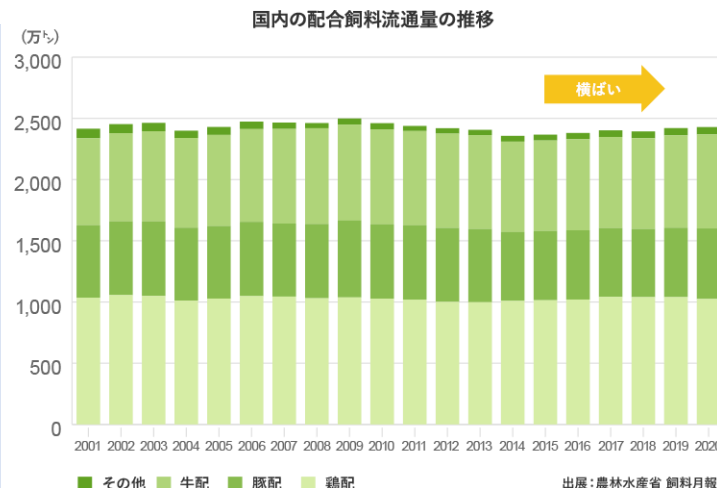
ガス化ユニット



熱電供給ユニット

【販売先業種】

粉体G	飼料・肥料
	食品・工業製品等
バイオマスG	地方公共団体・森林組合
	民間企業（林業・電力会社等）



- 飼料業界は年間約2400万トンの安定した市場を維持
- 一方、畜産業界を取り巻く状況は穀物相場の上昇、円安などで四半期毎の飼料価格改定は値上げの一途
- 今後飼料工場は更なるコストダウンの為に合理化を求められ大型工場への転換や、既存製造設備の増強等で飼料加工機械の需要は出てくると予想

事業部紹介 - ライフサイエンス事業部(マテリアルソリューション部) -

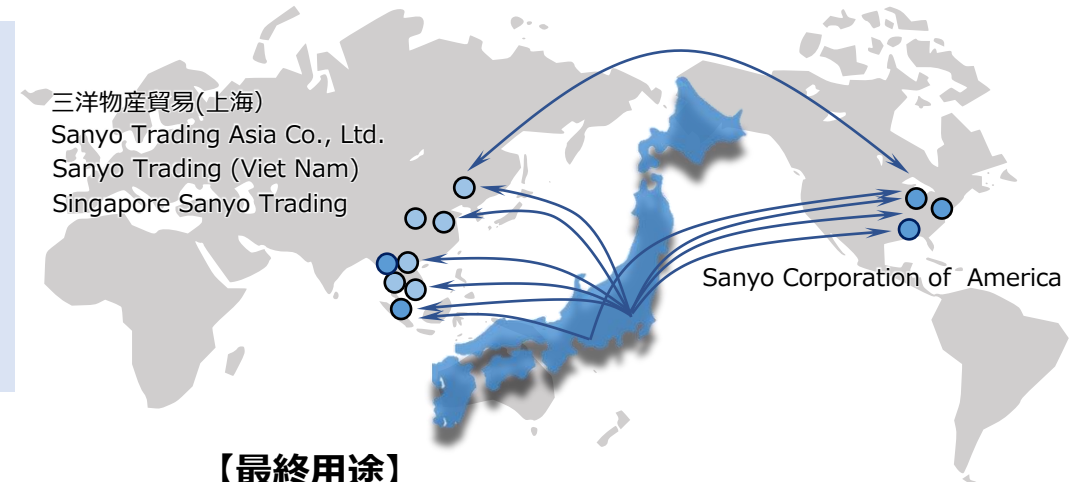


- 2021年10月 化学品事業部の一部事業と科学機器事業部を統合し、ライフサイエンス事業部が発足
- 移管された化学品関連事業はマテリアルソリューション部として新たにスタート

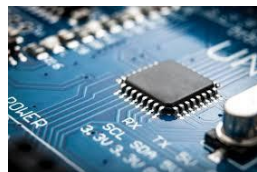
【マテリアルソリューション(MS)部の特徴・強み】

- 機能性材料、環境対応型商品など、ライフサイエンス商品を展開
- 新規商材の育成に注力
- 輸出割合が高い
- 事業領域拡大に向けたM&Aを積極的に推進、海外拠点を活用した拡販によりシナジー享受を目指す

【ライフサイエンス事業部の海外拠点】



【取扱商材(一部抜粋)】



電子材料



各種フィルム



化粧品(原料・容器)



食品添加物

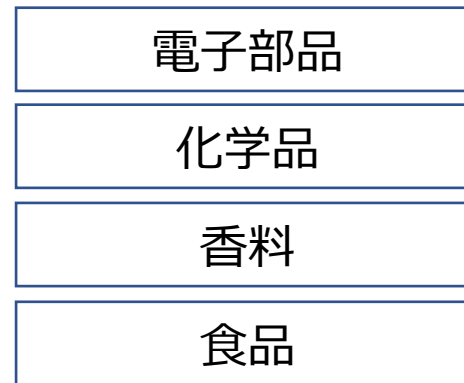


香料



高機能性樹脂

【販売先業種】



【最終用途】



電子機器



芳香剤



洗浄剤



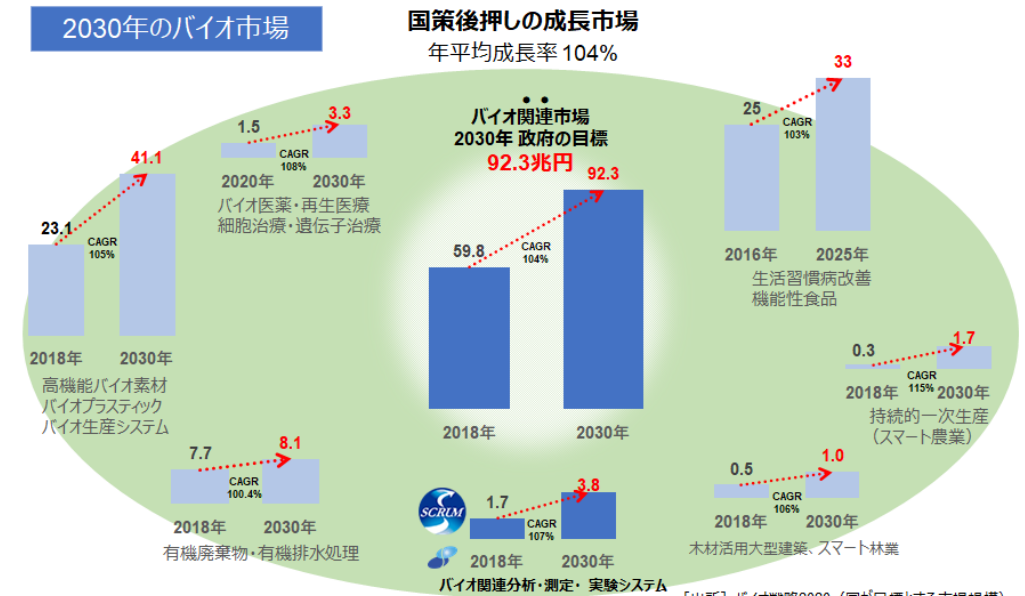
オムツ

事業部紹介 -ライフサイエンス事業部 (科学機器部)-

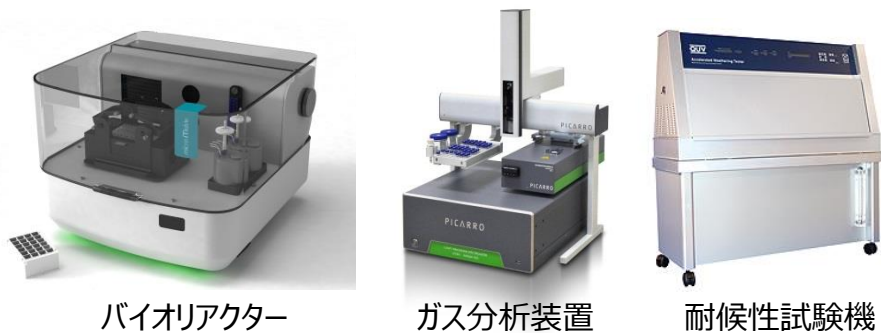
- 1973年 化学品部開発課を設置した後、科学機器の取扱開始。1991年に科学機器部として改編
- 2021年10月 化学品事業部の一部事業と科学機器事業部を統合し、ライフサイエンス事業部が発足

【科学機器(SI)部の特徴・強み】

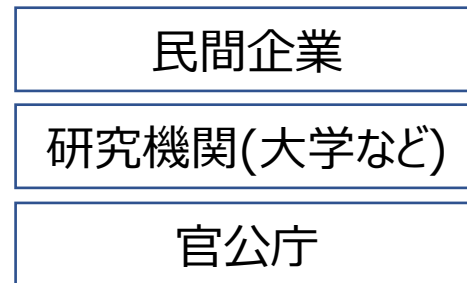
- 海外メーカーの最先端機器を国内に輸入、販売を行う
- 海外機器の保守・技術サービスを当社グループ内で迅速に提供
- 特定分野に偏らず、官公庁、民間企業とも幅広い分野で顧客を有する
- 事業領域拡大に向けたM&Aを積極的に推進
- スクラム社の買収により、今後バイオ関連事業を強化していく方針



【取扱商材(一部抜粋)】



【販売先業種】



【最終用途】

- 摩擦摩耗試験
- 耐候性試験 (天候・腐食劣化等)
- 界面科学評価 (濡れ・泡評価等)
- バイオテクノロジー分野 (医薬品等)
- 粉体物性評価 等

【出所】 バイオ戦略2020 (国が目標とする市場規模) / 従来のバイオ技術も含めた市場を定義

事業部紹介 -海外現地法人-

	ゴム	化学品	産業資材
北米地域	Sanyo Corporation of America (米国)		
	Sun Phoenix Mexico (メキシコ)		
アジア地域	三洋物産貿易(上海)有限公司(中国)		
	Sanyo Trading Asia Co., Ltd. (タイ)		
	Sanyo Trading(Viet Nam)Co., Ltd. (ベトナム)		
	PT.Sanyo Trading Indonesia (インドネシア)		
	Sanyo Trading India Private Ltd. (インド)		

三洋物産貿易(上海)有限公司(中国)

主力商材

- 自動車内装用部材
- 化成品

注力分野

- リチウム電池材料
- 工業用接着剤



Sanyo Trading Asia(タイ)

主力商材

- 自動車向けゴム原材料
- 自動車内装用部材
- 化成品

注力分野

- 高機能電材添加剤
- アジア複数現地法人との連携



Sanyo Corporation of America (米国)

主力商材

- 高機能性フィルム
- 高機能性樹脂
- 自動車内装用部材
- ゴム副資材

注力分野

- 高付加価値フィルム
- メキシコ現地法人との連携



連結貸借対照表



(単位：百万円)

資産の部	2022年9月期4Q (2022.9末)	2023年9月期2Q (2023.3末)	負債の部	2022年9月期4Q (2022.9末)	2023年9月期2Q (2023.3末)
現金・預金	5,879	6,370	支払手形・買掛金	12,767	11,504
受取手形・売掛金等	24,008	24,875	短期借入金	5,893	6,974
棚卸資産	23,125	23,255	その他流動負債	3,352	4,208
その他流動資産	2,119	2,073	長期借入金	177	164
有形固定資産	3,340	3,295	その他固定負債	1,456	1,633
その他固定資産	4,386	5,785	純資産	39,212	41,170
資産合計	62,859	65,656	負債純資産合計	62,859	65,656

【ポイント】

- 運転資金増加、その他固定資産増加を利益及び借入で賄う

	2022年9月期4Q (2022.9末)	2023年9月期2Q (2023.3末)
有利子負債比率	15.7%	17.5%
自己資本比率	61.7%	62.0%

算出方法) 有利子負債比率 : 有利子負債 (※1 ; リース債務除く) ÷ 自己資本 (※2)
自己資本比率 : 自己資本 ÷ 期末総資産

(※1) 有利子負債 = 短期借入金 + 長期借入金

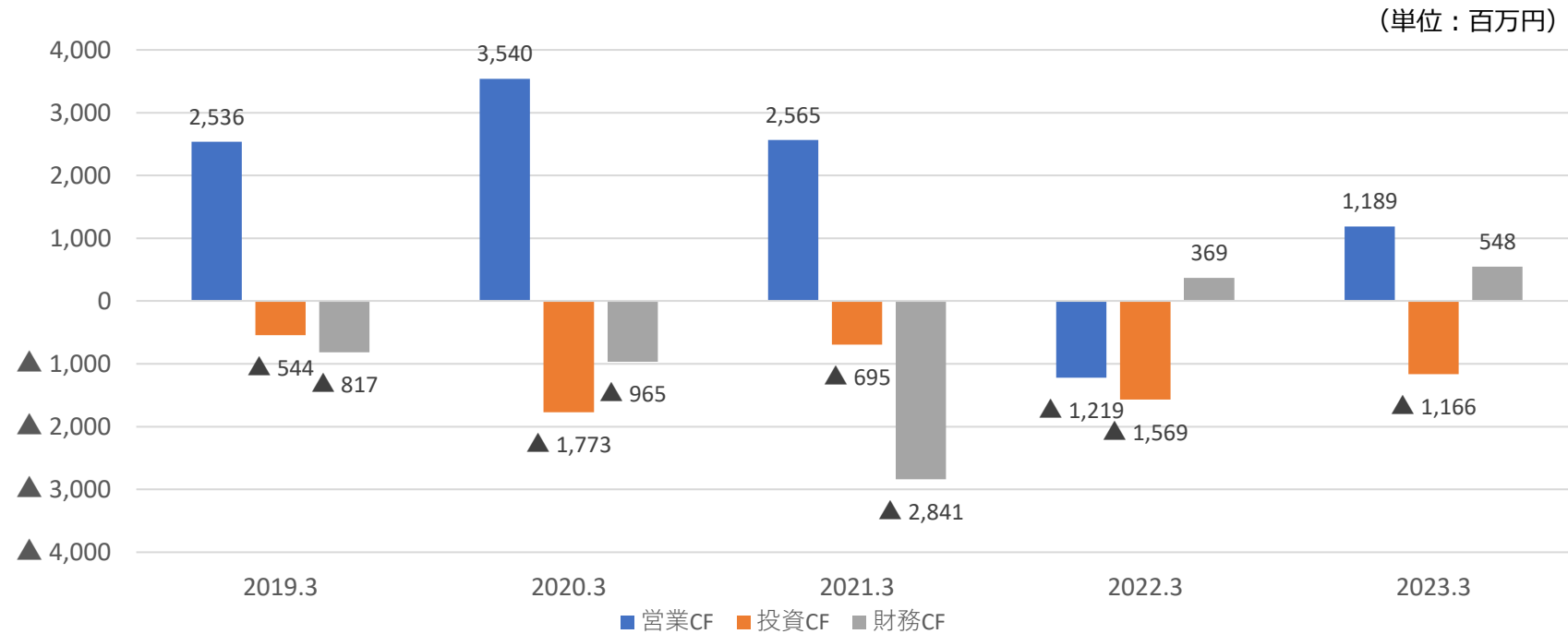
(※2) 自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 非支配株主持分

連結キャッシュフロー

営業CF：運転資金増加も、利益が上回る

投資CF：コスモ・コンピューティングシステム社株式取得など

財務CF：運転資金増加による短期借入増の一方、配当金の支払



	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3
営業CF+投資CF+財務CF	1,174	802	▲970	▲2,419	572
現金及び現金同等物の残高	3,695	5,395	9,648	6,605	6,218

IRに関するお問い合わせ先

三洋貿易株式会社 経営企画部長 難波 嘉己

電話：03-3518-1052 e-mail：ir@sanyo-trading.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。